

# 稲こうじ病に対する銅水和剤の防除効果

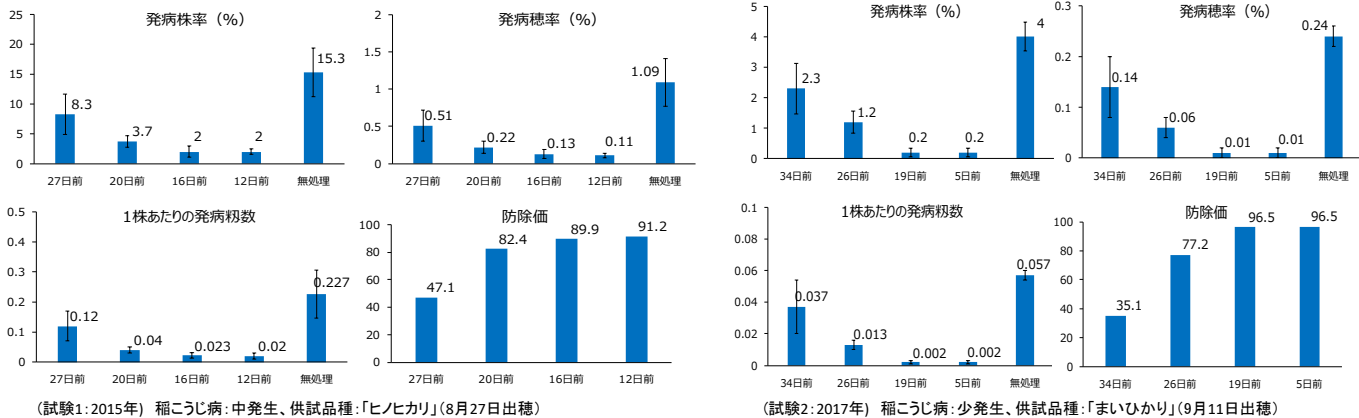
## 稲こうじ病に対する銅水和剤の防除効果および散布適期

### 背景・目的

- 近年、イネ稲こうじ病(病原菌 *Villosiclava virens*、不完全世代 *Ustilaginoidea virens*)が、九州全体で問題となっており、有効な防除法の確立が求められています。
- 本県を始め、九州地域では本病に対する防除薬剤の試験事例が少ない状況にあります。
- 稲こうじ病に対する銅水和剤の防除効果と散布適期について評価します。

### 成果の内容

- 中発生条件(2015年) および少発生条件(2017年)下においては銅水和剤の出穂5～20日前散布が有効であり、出穂期に近いほど効果が高くなる傾向があります(図1)。
- 出穂期の予測誤差、天候による散布作業リスク、銅水和剤の使用制限(出穂10日前まで)を考慮すると、本剤の散布計画は出穂2週間前が適切です。



### 成果の活用方法(又は期待される効果)

- 玄米や種子への稲こうじ病の病粒の混入を減らし、品質の低下を防ぎます。



図2 稲こうじ病の被害穂の様子



図3 稲こうじ病の被害の軽減

- 普及対象地域・面積 普通期水稻栽培地域

### 留意点

- 稲の稲こうじ病に対する銅水和剤の適用は、希釈倍数2000倍、使用液量60～150L/10a、使用時期「出穂10日前まで」です(2018年2月現在)。
- 稲における銅水和剤の高温時の使用は、薬害を生じやすいので留意します。